

いつのまにか：

柴田由紀子

日記をつけるようになって一年近くなります。

日記をつけてみたら？と言ったのは次男。

「日記は、嬉しいことや楽しかったことだけ書くんだよ。

辛いことや苦しいことは声にして言葉にして誰かに聞いて貰えばいいからね。

いつでも聴くよ！

そして、悲しいことがあったら日記を読み返してみて、そこには幸せな自分しか

いないから不思議と元気になれるんだよ！」

と教えてくれました。



次男は三年前に一年の予定で留学しましたがコロナで戻れなくなり、この夏、三年ぶりに親孝行のために一時帰国すると戻って来ましたが、四十日の夏休みを終

えると再び二年の留学を選択して戻っていききました。

コロナがなければ日本にいる選択だったかもしれない。

たくさんある選択はいつも何かある度が変わっていきます。

きつと三年の間に辛いことも苦しいこともあったのでしょうか。

そして元気になる方法も見つけたのでしょうか。

この選択がベストであることを願うばかりです。

そんな彼から

『還暦おめでとう。いつ何処にいても一番の味方だからね』

と旅立つ前に手紙と花をもらいました。

いつのまにか：親から子に伝えていた言葉を子供からもらうようになりました。

いつのまにか：彼は支えられるから支えたいと思うようになっていました。

コロナのせいではなく、コロナのおかげでいつのまにか：

ひとまわり大きくなっていました。

## お知らせ

コロナ禍で総会や勉強会がないまま、通信で一方通行のような形が続き、申し訳ない気持ちでいっぱいですが、そろそろ**総会を開催**しようかと声があがり検討しております。

4月にどのような状況になっているのか想像もできませんが、可能な状況でしたら除菌・マスク・検温など感染対策を考えながら、皆さまにお会いできますようにと願いながら進めていきたいと思

います。

開催できる運びとなりましたら、往復はがきで連絡したいと思います。

総会について、通信について、今思うことなど、皆さまのご意見などもいつでもお待ちしております。

(柴田由紀子)

## “手縫い”の報告

岡崎市民病院・国際病院・施設などへ依頼された品を作り届ける。  
第2月曜日 10:00～12:00 場所 カトリック岡崎教会



毎月第二月曜日、10時～12時。

日常の喧騒から離れたこの2時間、最近の私の大切な時間になりつつあります。



ボランティアをやってみない？と誘われた時には、正直私には無理と思っていました。ボランティアは人の為に自分を犠牲にしても尽くす事だと本気で考えていたからです。

しかし、代表の柴田さんの話を聞くうちに、自分にやれる事で人の役に立てる事があればそれでいいんじゃないか、と思えるようになっていました。

そんな時に手縫いの会より、腕カバーの依頼を頂き、下手な出来栄えに会の皆さんからの感謝の言葉に、私にも出来る事があるなら参加してみようと思いました。

月一回、裁ちばさみと古着を持って教会に行くのを楽しみにしている自分に驚いています。無理せず続けて行きたいです。

(竹谷清美)

## 緩和ケア病棟ボランティアの報告



コロナ禍の中、様々な変化が身近なところで起きています。特に人と人との関わりはとても大切なことに強く感じるこの頃です。

先日3年ぶりに会った県外に住む姉は、見た目はとても元気でしたが、認知症の入り口に入っていました。

この会のアロママッサージを受ける体験をさせて頂いた時、暖かく手の動く感覚もとても気持ちの良いものでした。

ああまたきつと施術を受けた患者様も同じように感じて頂いたことでしょう。

早くマッサージの練習が出来、アロママッサージを患者様に施術させて頂ける日が待ち遠しいです。

(山西祐子)



コロナ禍で面会が出来ない緩和ケア病棟。

そんな状況の中、“おひとり様でも家で死ねますか？”という番組を見ました。

こんな手厚い在宅ケアがあればと思いながら見ていましたが、緩和ケア病棟で最期の時間を過ごされた方から、痛みとの闘いのお話を伺ったことがあります。

「ボタンを押せばすぐに痛みを和らげるために先生や看護師さんが飛んできて下さるから有難い」との言葉が頭の中を駆け巡りました。

面会が出来ないなら在宅のほうが良いと思っていましたが、痛みの不安がなく心穏やかに過ごせるなら緩和ケア病棟も良いと思いました。

橋本先生から「コロナも落ち着きつつあるので、またボランティア活動が再開できるようになること心待ちにしています。」と連絡を頂いています。

優しいスタッフがいてくださり、家族とも会うことの出来る緩和ケア病棟が再開される日を願うばかりです。

(柴田由紀子)

## “つどい”の報告

患者・家族・遺族（誰もが遺族）の集まり

第4木曜日 10:00～12:00 社会福祉センター（第2活動B室）

頂いたお手紙より

「まだまだコロナとの戦いが続きます。毎日の生活も以前のように運ばず、イライラする時もありますが、ここからが頑張りどころです。一緒に乗り切り幸せを探し、人にも幸せを分けてあげたいですね。出逢いに感謝、いつもありがとうございます。」

今年もあとわずかに。

自分を大切に、そして人も大切に、これからも過ごしていきたいと思います。

（神尾弘美）

秋の日に

母は煮物料理が得意でした。

調味料は目分量。何でもさっさと味付け、煮てしまう。

中でも里芋の煮っころがしは絶品でした。いくら真似てもなかなか同じようには出来ないのです。

里芋が手に入ると母のところに持って行き母と二人、新聞紙を広げたその上におしゃべりしながら皮をむき、それを母がさっと煮てくれる。美味しい一品が食卓にあがります。

先日、知人から里芋をいただいたのでさっそく皮をむき、煮っころがしに・・・

家族は「おばあちゃんの味だ」と言いますが、母の味に少しは近づいたのか、はたまた私の味に家族が慣れてきたのか。

母が亡くなり4年になります。

（神尾弘美）



## 嬉しいお知らせ

秋の叙勲



11月3日文化の日、青山良枝・元県がんセンター愛知病院看護部長が看護業務功労者として瑞宝単光章を受けられました。

私たち緩和ケア病棟のボランティアにとっては、看護部長さんとして多くのイベントに参加して頂き、退職後はボランティアコーディネーターとして病棟のスタッフと患者さま、ボランティアの架け橋となっていたいただいた良き理解者でした。心からとても嬉しく思っています。

おめでとうございます。

## あとがき

私たち一人ひとりに大切な人たちがいる。心を揺さぶらせる行動・言葉・生き方・味・存在そのもの……。特に戦争を体験された方々には教えられる。平和な日常生活に戦跡の陰を見つめて生きることを日常とされている。その姿勢に学ぶことは大きい。

限られた人生の中でどんな人に出会い、何に影響されて今を生きるか。

選択でもある。

出会った一人ひとりに感謝して一日を過ごしたいですね。

（橋詰清子）

## 贖罪

中林良夫

人はどこまで愚かなのだろう。旅に出るたびにそう思う。仕事を兼ねてでなければこれまで日本全国四十七都道府県に足跡を残した。海外にも多くはないが渡航した。敢えて探すわけではないが、その都度、その地の戦跡を素通りすることができなかった。

鹿児島には再三訪れた。ここには知覧特攻平和会館があり、若き青年特攻隊員が残した遺書や遺品が展示してある。そのひとつひとつを読んで行ったとき、明らかに異質な遺書に行き当たった。

「一度は死んでやる」  
「ワッハハハ」

特攻隊員はお国のために「バンザイ」と叫んで突撃したのではなかったのか。

その先の島、沖縄では島民が逃げ込んだ洞窟を訪れた。沖縄で何人が亡くなられたか、いまもって明確ではないが、軍人と住民合わせて二十三万人と言われる。ここでは選ぶ余地なく相当数の住民が火炎放射器で焼き殺された。目の前に迫る炎をどの

ような目でみつめたであろう。

南の島と言えばサイパン島の海の美しさは文句なく心を癒してくれる。この小さな島には「バンザイクリフ」と呼ばれる崖がある。米軍に追い詰められた日本兵が「バンザイ！」と叫んで海に飛び込んだ崖である。崖の上には日本の少年兵の墓碑もあれば韓国人のものもあることを忘れてはならない。

ベトナム最大の都市、南部のホーチミンも訪れた。ホテルの眼前には、ベトナム戦争最大の激戦地であった密林が広がる。いまではアオザイ姿で街を闊歩する少女の姿がまぶしい。ここでも惹かれるように戦跡を訪ねた。

枯れ葉作戦で短い命を終えた幼児の写真は直視するに堪えない。密林の中には草でカモフラージュした落とし穴があり、中には何十本という槍ぶすまが獲物を待っていた。ここに落ちた名もない米軍兵士は故郷の光景や老いた父母を思い出しながら息絶えることが出来たのだろうか。

五十年前の中国・満州地区。広く広がる赤い大陸には、一歩足を踏み出せば、その下には日中戦争の犠牲者の白骨があると思うと、二の足を躊躇してしまう。

ある集落では村人がスパイだと旧日本軍に決めつけられ、ほぼ全員が崖の下に並ばされて機銃掃射を浴びた。そのあと、崖を爆破されて、ほとんどの村人が最後の息の根を止められた。後のベトナム戦争で展開されたソンミ事件に酷似する。

人生の最終コーナーを回って、自分を見つめた時、「自分は胸張って生きてきただろうか」と反芻せざるをえない。

戦跡巡りで人間の限らない業と残酷性に言葉を失う一方で、テニス、スキー、ゴルフ、水泳、山歩きを楽しむ。後者の生き方をどこかで受け入れている自分を見つけた時には、深い自己嫌悪に陥る。気持ちの上であれ、贖罪の旅はきょうも続く。